

御言葉に聴く

(ルカ4・14〜30)

一、資料としても価値がある

ルカの福音書4章を開いています。この箇所は資料としてもたいへんに価値があります。ユダヤ人の学者で——キリスト者ではありませんが——シムムエル・サフライという方が、ここに書かれている記述は、ユダヤ教の会堂で律法の書の他に預言者の書が読まれていたことを知る最古の資料である、と語っています。16節をご覧ください。

〈それから、イエスはご自分の育ったナザレに行き、いつものとおりに安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。〉とあります。この短い文章の中に、情報がいっぱい詰まっています。〈イエスはご自分の育ったナザレに行き〉は、主イエスがナザレを離れて宣教活動を開始し、しばらく経ってから故郷に戻ってきたという意味です。続いて、〈いつものとおりに安息日に会堂に入り〉とあります。主イエスはユダヤ人として、いつものとおりに安息日——今日の日曜日——に、会堂というユダヤ人の礼拝施設に入られました。〈朗読しようとして立たれた〉と書かれています。何を朗読されたのでしょうか。会堂には「モーセの律法」、また「預言者」と呼ばれた書、さらには「詩篇」その他の巻物が備

えられていました。会堂における礼拝では、ラビと言われる律法の教師が立ち上がってモーセの律法を朗読し、続いて預言者の書が朗読されました。17節をご覧ください。〈すると、預言者イザヤの書が手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つけられた。〉とあります。イザヤ書を選んだのは、おそらく主イエスです。

二、預言者イザヤの巻物の朗読

主イエスは朗読なさいました。18〜19節です。〈わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。〉と。〈貧しい人々〉とは実際に貧しくて困窮している人々という意味よりも、比喻として受け止める方が的を射ています。そういう〈貧しい人々〉が富める人になり、〈捕らわれ人〉が解放され、〈盲人〉が希望を見いだすようになり、〈しいたげられている人々〉が自由になるのです。さらに、〈主の恵みの年を告げ知らせるために〉とは、旧約のレビ記に書かれている「ヨベルの年」のことを指しています。五十年に一度、土地や財産などの貸し借りを帳消しにするという律法です。

そういう恵みの時が来た、と主イエスは朗読なさいました。

三、イエスにおいて実現した

続いて20節です。まずは前半です。

〈イエスは書を巻き、係りの者に渡してすわられた。〉と書かれています。〈すわられた〉とは、当時ラビがモーセの律法と預言書を朗読した後、イスに座つて、説教を始める体勢です。そういうわけで、イザヤの巻物から何が語られるのか、そこに集まった人々は興味津々でした。20節後半です。〈会堂にいるみな目の目がイエスに注がれた。〉ですが、そこには期待と疑いとが入り混じっていました。「ヨセフの息子のことは昔からよく知っている。仕事をやめ、家を飛び出してどうしているかと思っていたら戻ってきた。今から何を語るのだろうか」と思ったことではありません。主イエスは語り始められました。21節です。〈イエスは人々にこう言って話し始められた。「きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおりに実現しました。〉と。イザヤの預言はご自身において実現したと語られました。これは、まさしく善き知らせ(＝福音)であり、教会が告白している信仰です(ロコリント1・20を参照)。人々はよるこびました。22節です。〈みなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いた。〉と書かれています。

四、イエスを気に入らない人々

ところが、22節後半です。〈そしてまた、「この人は、ヨセフの子ではないか」と彼らは言った。〉とあります。その後、人々はイエスをがけから投げ落とそうとしました(28〜29節)。なぜ、このようなことをしたのででしょうか。イエスが自分たちの願ったように行動しなかったからです。カペナウムで多くの病人を治したように、ナザレでも病人を治さなかったからです。他の場所でも奇跡を行ったように、ナザレでも行わなかったからです。しかも、その原因があなたがたの不信仰にあると、主イエスが指摘したからです。だから人々は怒ってしまい、イエスをがけから投げ落とそうとして、連れて行きました。私たちが、気に入るか入らないかを基準にして生きて行きますと、行き着くところは、もつとも醜い姿となります。たしかに、気に入る、入らないという気持ちにはだれの中にもあります。では、どうしたらよいのでしょうか。それは、どんな人がいても、神が許されて置いておられると受け止めることです。これが、神が私たちに授けられた知恵です。

神の約束、すなわち旧約の預言はことごとく、この方(＝イエス・キリスト)において実現しました。それを信じているのがキリスト教会であり、教会に連なる一人ひとりで。